

天竜区春野で静岡文化芸術大生



浜松市中区の静岡文化芸術大文化政策学部で伝承文学を専攻する二本松康宏教授ゼミの学生が26日、同市天竜区春野町の中山間地域の集落で昔話の採録調査を始めた。2020年度まで3年間同町内の3地区で実施し、各地区の昔話を毎年度書籍にまとめる計画。
(天竜支局・松本直樹)

昔話採録調査を開始

20年度まで3地区 書籍化

初日は3、4年生6人と二本松教授が同町熊切地区の花島自治会館を訪れ、花島集落の高齢者6人から地域に伝わる風習、伝説を聞いた。おはぎを「半殺し」と言ったりや祭りの女人禁制の風習、山にある「お地蔵さん」に関する話、姥捨山の昔話などがあつた。
学生は録音した音源を持ち帰り方言から話し方の癖まで全て文字に書き起こす。そ

↑ 高齢者から昔話を聞く学生＝浜松市天竜区春野町の花島自治会館

「地域文化遺産残したい」

の中で伝承文学として書き残すべきと判断した昔話については文献を調べ、追加で現地調査もして書籍に収録する。
18年度は人口約720人の同地区で8月上旬まで採録調査をし、10月から住民の暮らしや歴史、文化を取材する。二本松教授は「口承伝承は形のないものだが、残す価値のある地域の文化遺産」と意義を説明。3年生の吉高里さん(20)は「緊張はしたが、うまく聞けた時は感動した」と感想を語った。
同集落の山田通夫さん(74)は「集落はどんどん寂れていく。若い人が話を聞いてくれるのはうれしい」と笑顔を見せた。

